

実体経済の動向

◇生産は減少、出荷は微増、在庫は増加

(生産——減少)

8月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比^(注)、速報)は、-0.8%と前2か月増加のあと減少した(前年同月比+1.2%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

8月の動きを財別にみると、資本財、非耐久消費財が増加したものの、耐久消費財、建設財、生産財は減少した。

すなわち、耐久消費財は輸出不振の二輪自動車、ステレオ、時計等を中心に前月増加のあと減少し、建設財も民間建築の停滞を映じた鉄骨、セメント、アルミサッシ等の減少から全体でも4か月振りの減少となった。また、生産財も輸出減少の影響を受けた鋼板、特殊鋼鋼管、一般機械部品等を中心に減少した。

一方、一般資本財は電子計算機、事務用機械を

中心に増加し、資本財輸送機械も前月大幅減少のあと反動増となった。この間、非耐久消費財は浴用石けん、揮発油が減少したものの、灯油、天然色フィルム等の増加から全体では前月減少のあと微増となった。

(出荷——微増)

8月の出荷(速報)は、+0.1%と前月小幅減少(-0.3%)のあと微増となった(前年同月比-0.1%)。

8月の動きを財別にみると、一般資本財、資本財輸送機械が増加し、生産財が横ばいとなったが、その他の財は減少した。

すなわち、一般資本財は金属加工機械、土木建設機械等の減少にもかかわらず電子計算機の大幅増加から、また、資本財輸送機械は船舶の著増を主因に、各々前月減少のあと増加を示した。この間、生産財は化学肥料、化学繊維等が増加したものの、揮発油等石油製品が値上げ前の駆け込み需要の反動から減少したほか、ブリキ、特殊鋼鋼管等の減少もあって、全体では横ばいにとどまった。

一方、耐久消費財は二輪自動車、ラジオ、カラーテレビ等の落込みから、非耐久消費財は灯油、

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

	56年		57年		57年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱 指 数	147.8	150.7	149.2	146.8	148.3	149.2	148.0
工 前期(月)比	2.1	2.0	-1.0	-1.6	2.4	0.6	-0.8
業 前年同期(月)比	4.5	5.7	3.6	1.5	1.3	1.1	1.2
投 資 財	2.6	0.8	0.5	-3.6	4.2	-1.4	0.2
資 本 財	2.6	1.4	1.1	-3.8	4.5	-2.2	1.2
同 (輸送機械を除く)	2.5	1.5	1.5	-2.9	4.3	-1.2	0.7
輸 送 機 械	2.5	-0.2	0.0	-5.7	4.9	-5.2	0.9
建 設 財	2.8	-0.2	-1.9	-2.4	2.3	1.4	-2.5
消 費 財	2.1	3.8	-1.5	0.1	1.6	3.3	-2.1
耐久消費財	2.0	4.8	-1.3	-1.4	-0.1	8.3	-3.3
非耐久消費財	2.4	2.0	-1.7	2.3	2.4	-1.7	0.1
生 産 財	1.6	1.3	-1.2	-1.8	1.2	0.2	-0.3

(注) 通産省調べ。57年8月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

	56年		57年		57年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱 指 数	141.2	142.1	140.5	138.3	140.3	139.9	140.0
工 前期(月)比	2.2	0.6	-1.1	-1.6	2.3	-0.3	0.1
業 前年同期(月)比	4.9	4.3	2.1	0.2	0.8	-1.0	-0.1
投 資 財	2.9	-0.2	0.2	-4.2	3.9	-2.1	2.5
資 本 財	2.5	-0.1	1.6	-4.9	3.6	-2.4	3.3
同 (輸送機械を除く)	1.8	0.7	2.0	-4.3	3.2	-1.3	2.3
輸 送 機 械	6.2	-3.7	-0.7	-5.0	5.0	-3.3	5.0
建 設 財	3.1	0.2	-4.1	-1.4	4.3	-0.5	-0.5
消 費 財	2.1	2.1	-1.9	0.8	-1.0	1.7	-1.5
耐久消費財	2.0	4.1	-1.5	-2.8	-3.3	5.9	-0.2
非耐久消費財	1.7	0.9	-1.9	3.9	1.0	-2.9	-1.3
生 産 財	1.7	0.3	-1.3	-1.3	3.2	-0.8	0.0

(注) 通産省調べ。57年8月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

揮発油等の反動減から、いずれも減少した。また、建設財も鉄骨、アルミドア、セメント等を中心に2か月連続の減少となった。

(在庫——増加)

8月の在庫(速報)は、+0.3%と前月(+0.3%)に続き増加し(前年同月比+4.5%)、在庫率指数(50年平均=100)も93.3と2か月連続の上昇となった(7月+0.5、8月+0.4ポイント)。

8月の在庫増減を財別にみると、資本財輸送機械、建設財、生産財が減少したものの、耐久・非耐久消費財、一般資本財が増加した。

すなわち、耐久消費財はエアコン、カーエアコン、冷蔵庫等夏物商品の在庫積上がりのほか、二輪自動車、ステレオ等の増加もあって、全体では3か月連続の増加となった。また、非耐久消費財は灯油、揮発油の増加から、一般資本財も電力・通信ケーブル、金属加工機械の増加からそれぞれ前月に引き続き増加した。

一方、資本財輸送機械は、普通自動車、トラックの減少から、また建設財もH形鋼、小形棒鋼等の条鋼類やセメントなどを中心に減少した。この間、生産財は揮発油等石油製品が増加したものの、

鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(一)率・%)

	56年 (期末)		57年 (期末)		57年		
	9月	12月	3月	6月	6月	7月	8月
鉱 指 数	113.6	113.4	116.2	118.0	118.0	118.4	118.7
工 前 期 (月) 末 比	-2.3	-0.2	2.5	1.5	0.0	0.3	0.3
業 前 年 同 期 (月) 末 比	-0.4	-1.2	0.4	1.5	1.5	3.0	4.5
投 資 財	-0.3	-1.0	3.9	-0.4	-0.1	0.6	-0.6
資 本 財	2.3	-1.4	4.7	0.5	1.7	1.5	-0.6
同 (輸送機械を除く)	0.2	-1.6	2.7	5.7	1.9	0.3	0.6
輸 送 機 械	5.8	-1.3	8.8	-8.2	0.6	2.0	-1.5
建 設 財	-2.9	-2.6	3.6	-1.7	-2.2	0.3	-1.2
消 費 財	-2.9	-1.7	-0.1	1.1	0.9	1.4	1.9
耐 久 消 費 財	-1.3	-1.2	1.5	0.9	2.7	2.2	3.0
非 耐 久 消 費 財	-2.8	-3.3	-3.8	2.2	-0.8	1.4	0.7
生 産 財	-2.9	1.0	4.1	3.0	-0.4	-0.3	-0.2

(注) 通産省調べ。57年8月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

		56年	57年		57年		
		10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
機 械 受 注	民 需	5,778 (6.3)	6,307 (9.2)	5,442 (-13.7)	5,039 (-24.0)	5,153 (2.3)	5,447 (5.7)
	同 (船舶・電力を除く)	4,571 (2.8)	4,484 (-1.9)	4,476 (-0.2)	4,061 (-25.9)	3,927 (- 3.3)	4,473 (13.9)
	製 造 業	2,551 (9.0)	2,545 (-0.2)	2,473 (-2.8)	2,343 (-19.9)	2,097 (-10.5)	2,518 (20.1)
	非製造業	3,075 (-1.7)	3,830 (24.6)	2,960 (-22.7)	2,654 (-26.0)	3,052 (15.0)	2,900 (- 5.0)
	同 (船舶・電力を除く)	2,047 (-2.8)	1,958 (-4.3)	1,984 (1.3)	1,710 (-33.7)	1,838 (7.5)	1,912 (4.0)
建設工事受注 (民間)		4,483 (6.5)	4,535 (1.2)	3,877 (-14.5)	3,858 (- 7.1)	3,798 (- 1.6)	4,160 (9.5)

(注) 機械受注は 経済企画庁調べ。建設工事受注は 建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(一)率(%)。

の、冷間仕上鋼材、非鉄地金、化学肥料、板紙等基礎素材品中心に生産抑制効果の顕現等から前月に続き減少した。

(民間設備投資——関連指標はいずれも増加)

8月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は、+13.9%と3か月振りの増加となった(前年同月比+0.1%)。業種別にみると、製造業からの受注は、鉄鋼、化学、自動車を中心に前2か月減少のあと大幅増加となった一方、非製造業は運輸を中心に前月に続き増加した。

また、8月の建設工事受注(民間分、速報)は、+9.5%と3か月振りの増加となった。

さらに、一般資本財出荷も+2.3%と前月減少(-1.3%)のあと増加した(前年同月比+7.8%)。品目別にみると、土木建設機械、金属加工機械、化学機械などが減少したものの、電子計算機、事務用機械、ポンプ等が増加した。

◇小売商況——一進一退

8月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、速報)は、天候不順による秋冬物衣料の出足不調等から+3.3%と引続き伸び悩んだ(前月+2.3%)。また、9月の都内百貨店売上高も、休日の降雨等から客足が鈍く-0.9%と40年7月以来の前年水準

割れとなった。

9月の耐久消費財の販売状況をみると、家電製品はステレオ等音響機器は依然不冴えであるが、VTR、電子レンジが高い伸びを続けたほか、カラーテレビ、掃除機等も増加するなど、全体として幾分持直し気味に推移した。

一方、乗用車新車登録台数(除く軽、前年比、速報)は、前月減少(-0.5%)のあと+4.1%とまずまずの伸びを示した。

◇商況の基調——弱保合い

9月の商品市況は、形鋼、製材品、砂糖がメー

カーの供給抑制を主因に、また灯油が需要期を控えた元売りの在庫補填の動きから幾分上昇したもの、鉄鋼(厚板、棒鋼)、繊維(ポリエステル、綿糸、毛糸)、銅、紙(段ボール原紙)が下落、またガソリン、合板も高値修正から反落するなど、全体として弱保合いで推移した。これは、輸出の先行き不透明感がなお根強いなかで、

① 秋需期の割には、総じて荷動きに乏しかったこと(繊維<ポリエステル、天然糸>、銅、紙<段ボール原紙>、合板)、

② 海外市況が月末にかけ軟調推移となったこと(非鉄)、

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(前月(期)比騰落率・%)

	ウエイト	57年		57 年					最近月の 前 年 同 月 比
		4～6月 平 均	7～9月 平 均	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
総 平 均	1,000.0	0.3	0.8	- 0.6	0.2	0.6	0.3	0.4	1.4
食 料 品	140.9	0.2	- 0.4	- 0.4	- 0.2	- 0.1	- 0.2	0.4	- 0.4
非食料農林産物	18.9	- 0.9	0.5	- 2.1	- 0.2	1.0	0.4	0.1	1.5
繊維製品	62.9	- 0.3	0.1	- 0.2	0.2	- 0.1	0.1	0	1.5
製材・木製品	33.6	- 3.1	0.5	- 1.4	- 1.4	0.9	1.1	0.6	1.4
パルプ・紙・同製品	28.9	- 0.2	1.9	- 0.5	- 0.4	- 0.9	- 0.8	- 0.3	- 2.0
金属素材	12.6	4.7	4.4	0.2	1.0	2.5	1.2	1.1	9.7
鉄 鋼	80.7	0.7	0.5	- 0.8	0.5	0.3	0.2	0.1	0.8
非鉄金属	26.1	- 2.5	2.2	- 1.9	- 2.5	2.3	1.8	3.0	- 3.7
金属製品	37.0	0.1	- 0.3	- 0.1	- 0.2	- 0.1	- 0.1	0	- 0.9
電気機器	73.3	- 0.2	0.5	- 0.3	0	0.5	0.1	0.1	0
輸送用機器	74.0	0.5	0.6	- 0.8	1.4	0	- 0.1	0.3	1.8
一般・精密機器	95.7	0.5	0.2	- 0.2	0.1	0	0.2	0.1	1.0
化学製品	91.1	- 1.0	- 1.2	- 0.6	- 0.5	- 0.6	- 0.2	0.2	- 1.5
石油・石炭・同製品	102.2	1.8	3.7	- 1.0	1.5	1.6	1.7	0.9	7.1
窯業製品	30.5	0.4	0.2	0	0.3	0	0	0	0.8
電力・ガス	25.5	0.4	5.7	- 0.2	0.3	5.3	0.3	0.4	2.1
雑 品 目	66.1	0.4	- 0.5	- 0.2	0.1	- 0.1	- 0.6	0.2	- 0.5
工 業 製 品	816.4	- 0.1	0.4	- 0.5	0	0.2	0.4	0.3	0.6
大企業性製品	579.9	0.1	0.4	- 0.4	0.1	0.2	0.4	0.2	0.6
中小企業性製品	214.6	- 0.5	- 0.2	- 0.3	- 0.3	0	0.2	0.2	0.6
非工業製品	158.1	1.4	2.1	- 1.2	1.3	1.2	0.3	0.8	4.7
国 内 品	801.9	- 0.1	0.3	- 0.1	- 0.3	0.2	0.3	0.3	0.4
輸 出 品	94.2	1.5	1.1	- 2.1	2.4	0.5	- 0.6	0.3	2.5
輸 入 品	103.9	1.9	4.2	- 2.1	2.3	2.3	0.9	1.1	7.2

(注) 日本銀行調べ。

③ さらには、値上げ(ガソリン)、供給不安(合板)を契機とする流通・ユーザー筋の仮需の動きがここへきて剝落したこと、等によるもの。

(卸売物価——小幅上昇)

9月の卸売物価は、前月比+0.4%と前月(同+0.3%)に続き上昇した(前年同月比+1.4%)。国内品・輸出入品別にみると、国内品は、石油製品(C重油)、鉄鋼(厚板、鋼管杭)の値上げに加え、食料品(鶏卵、豚肉)が秋冷需要等から値上りしたこともあって、+0.3%と上昇した。また、輸出品、

輸入品も、為替円安の影響からそれぞれ+0.3%、+1.1%の上昇となった。一方、加工製品別にみると、素原材料が為替円安から+0.7%の上昇となったほか、中間品も燃料・動力(C重油)、製品原材料(鋼材)等の値上りから+0.4%と上昇した。また、完成品も非耐久消費財(食料品)の値上りを主因に+0.2%の上昇となった。

(消費者物価——9月<東京都区部、速報>は+2.0%の上昇)

9月の消費者物価(東京都区部、速報)は、前月

消費者物価指数の推移

(前月<期>比騰落率・%)

			ウエイト	57年		57年			最近月の 前年 同月比
				4～6月 平均	7～9月 平均	7月	8月	9月	
東京都	総合	100.0	1.1	0.6	- 0.7	0.8	*	2.0	* 4.3
	生鮮食品を除く総合	92.7	1.5	0.3	- 0.4	- 0.3	*	1.3	* 3.5
	(生鮮食品)	(7.3)	(- 3.5)	(5.4)	(- 5.7)	(18.9)	*(9.9)	*(13.3)	
	食料	37.6	0	1.5	- 0.8	3.3	*	2.2	* 5.0
	住居	7.1	1.1	0.4	0.2	- 0.3		0.2	2.5
	光熱・水道	5.5	0	0.2	0	0.2		0.2	8.1
	家具・家事用品	4.7	- 1.0	0.2	- 0.4	0.5		0	0
	被服および履き物	9.4	4.3	- 3.2	- 5.0	- 5.7		11.8	4.6
	保険医療	3.4	0.2	0	0	0.1	-	0.1	0.9
	交通通信	9.2	1.6	1.1	0.2	0.5		0.1	3.9
	教育	6.0	5.8	0.1	0	0		0	5.9
	教養娯楽	11.7	1.0	1.6	0.8	0.8	*	0.6	* 3.5
東京	諸雑費	5.4	0.9	0.3	- 0.3	0.1		0.6	2.3
	季調済								
全	総合	100.0	0.1	1.2	- 0.7	1.9		0.8	-
	生鮮食品を除く総合	92.7	0	0.8	0	0.6		0.6	-
全国	総合	100.0	1.0	...	- 0.7	0.7		...	3.1
	生鮮食品を除く総合	92.6	1.4	...	- 0.3	- 0.4		...	2.8
	(生鮮食品)	(7.4)	(- 2.8)	(...)	(- 7.9)	(17.6)	(...)	(7.1)	
	特殊分類								
	農水畜産物	14.2	- 1.6	...	- 4.2	9.7		...	4.2
	工業製品	45.2	1.2	...	- 0.7	- 1.2		...	2.2
	うち大企業性製品	21.3	0.2	...	0.1	0.8		...	2.0
国	中小企業性製品	23.9	2.3	...	- 1.4	- 2.9		...	2.5
	サービス	34.0	2.0	...	0.2	0.2		...	3.7
季調済	総合	100.0	- 0.1	...	- 0.3	1.6		...	-
	生鮮食品を除く総合	92.6	0.1	...	0.1	0.6		...	-

(注) 1. 総理府統計局調べ(55年基準)。
2. * は速報。

比 +2.0%の上昇となった。これは、生鮮食品(野菜等)が天候不順から +9.9%と続騰したほか、生鮮食品を除くベースでも、秋冬物衣料の高値回りを主因に +1.3%と上昇したことによるもの。なお、前年比上昇率も +4.3%に上昇した(前月同 +4.0%)。

◇経常収支の黒字幅は縮小

8月の国際収支をみると、貿易収支(季節調整後)の黒字幅はほぼ前月並みとなったが、貿易外・移転収支の赤字幅拡大から、経常収支の黒字幅は6.3億ドルと前月(7.7億ドル)比小幅縮小をみた(なお、原計数ベースの経常収支は、0.3億ドルの赤字)。一方、長期資本収支は本邦資本が引続き高水準の流出超となったうえ、外国資本も2年10か月振りに流出超に転じたため、22.9億ドルの大幅赤字(前月同19.6億ドル)となり、この結果、総合収支は4.0億ドルの赤字と3か月連続の赤字を記録した(前月同5.0億ドル)。

なお、8月末の外貨準備高は244億ドルと、前月増加のあと再び減少した(前月末比 -12.5億ドル)。

(輸出——減少)

8月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は、-0.3%(前月 -0.7%)と4か月連続の減少となり、数量(通関)ベースでも -2.2%と前月増加(+3.8%)のあと再び減少した。品目別(通関、数量ベース)には、鉄鋼が棒鋼を中心に増加し、また船舶も引渡し集中から著増したが、自動車が減少したほか、テレビ、テープレコーダーも輸出先市場における在庫調整の影響から減少を示した。

なお9月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は、+0.7%と前月減少のあと小幅ながら再び増加した。品目別には、自動車、鉄鋼が減少したものの、電気製品、繊維製品、化学製品が増加をみた。

(輸入——微増)

8月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は、+0.1%(前月+0.4%)の微増となり、数量(通関)ベースも、+0.9%の増加(前月+0.7%)を示した。品目別(通関、数量ベース)には、食料(小麦、砂糖等)、羊毛等が減少した一方、原油が入着集中から増加したほか、綿花、木材も当月は増加となった。

国 際 収 支

(単位・百万ドル、カッコ内は貿易収支季調後の計数)

	56年	57 年		57 年			前年同月
	10～12月	1～3月	4～6月	6 月	*7 月	*8 月	
経 常 収 支	1,860 (1,031)	△ 912 (915)	2,582 (2,774)	1,873 (1,153)	1,411 (765)	△ 30 (632)	477 (925)
貿易収支	5,685 (4,856)	2,439 (4,266)	5,312 (5,504)	2,518 (1,798)	2,329 (1,683)	984 (1,646)	1,738 (2,186)
輸 出	39,122	34,994	35,216	11,670	11,921	10,405	11,644
輸 入	33,437	32,555	29,904	9,152	9,592	9,421	9,906
貿易外収支	△ 3,352	△ 2,883	△ 2,495	△ 587	△ 806	△ 949	△ 1,186
移 転 収 支	△ 473	△ 468	△ 235	△ 58	△ 112	△ 65	△ 75
長期資本収支	△ 3,063	△ 5,805	△ 4,569	△ 2,022	△ 1,959	△ 2,286	△ 825
本邦資本	△ 6,864	△ 7,435	△ 6,600	△ 2,508	△ 2,794	△ 2,212	△ 1,742
外国資本	3,801	1,630	2,031	486	835	△ 74	917
基礎的収支	△ 1,203 (△ 2,032)	△ 6,717 (△ 4,890)	△ 1,987 (△ 1,795)	△ 149 (△ 869)	△ 548 (△ 1,194)	△ 2,316 (△ 1,654)	△ 348 (100)
短期資本収支	548	865	△ 2,851	△ 1,096	214	958	582
誤差脱漏	△ 718	2,561	1,458	△ 223	△ 165	961	367
総 合 収 支	△ 1,373	△ 3,291	△ 3,380	△ 1,468	△ 499	△ 397	601
金 融 勘 定	△ 1,373	△ 3,291	△ 3,380	△ 1,468	△ 499	△ 397	601
外貨準備増減	423	△ 1,172	△ 1,744	△ 1,056	182	△ 1,253	146
そ の 他	△ 1,796	△ 2,119	△ 1,636	△ 412	△ 681	856	455
外 貨 準 備 高	28,403	27,231	25,487	25,487	25,669	24,416	27,660
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 39,545	△ 41,342	△ 41,394	△ 41,394	△ 43,689	△ 42,267	△ 38,496

- (注) 1. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 2. 金融勘定の△印は純資産の減少。
 3. *印は暫定。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支 ベ ー ス			通 関		輸 出 信用状
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	
56 年 10 ～ 12 月 平 均	12,503 (+ 0.2)	10,884 (+ 5.9)	1,619	12,684 (+ 0.3)	11,920 (+ 4.4)	8,312 (- 1.4)
57 年 1 ～ 3 月 平 均	12,503 (0.0)	11,081 (+ 1.8)	1,422	12,707 (+ 0.2)	12,200 (+ 2.3)	8,010 (- 3.6)
4 ～ 6 "	11,767 (- 5.9)	9,932 (- 10.4)	1,835	11,879 (- 6.5)	10,933 (- 10.4)	7,914 (- 1.2)
57 年 5 月	11,678 (- 5.2)	9,874 (- 5.2)	1,804	11,678 (- 6.1)	10,667 (- 8.8)	8,102 (+ 4.5)
6 "	11,303 (- 3.2)	9,505 (- 3.7)	1,798	11,519 (- 1.4)	10,438 (- 2.2)	7,887 (- 2.7)
*7 "	11,222 (- 0.7)	9,539 (+ 0.4)	1,683	11,381 (- 1.2)	10,559 (+ 1.2)	8,026 (+ 1.8)
*8 "	11,193 (- 0.3)	9,547 (+ 0.1)	1,646	11,003 (- 3.3)	10,521 (- 0.4)	7,821 (- 2.6)

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(一)率(%)。
 2. 輸出信用状接受高は特殊大口を除く。
 3. *印は暫定。